

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪大学箕面新キャンパス学寮施設	階数	地上12F
建設地	大阪府箕面市船場東3丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	345 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年4月8日
敷地面積	2,000 m ²	作成者	蔵原
建築面積	1,035 m ²	確認日	2019年4月8日
延床面積	10,501 m ²	確認者	伊東



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み 81%

③ 上記+②以外の 81%

④ 上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
道路に面して歩道上空地を設け、境界からの隔離を確保し、騒音、視線、採光に配慮し街路との一体感を創出した。	0	
Q1 室内環境 居室の窓を大きくし、通風・採光の確保に努め、快適な住空間を目標とした。 居室のサッシは断熱性の向上を図り、複層ガラスとし、遮音等級T-1以上を採用した。	Q2 サービス性能 将来の更新を想定し、PS、EPSに設備幹線の予備スペースを確保した。 排水管の漏水対策として二重スラブ、漏水センサーを設置した。	Q3 室外環境(敷地内) 街路に面して並木を配置し、快適な緑陰を形成した。 行政の景観基準に整合した落ち着いた色調で外観を構成した。 隣接する大学研究棟と一体となった公園を整備した。
LR1 エネルギー 住戸に対する日射侵入率の低減効果のあるバルコニーを設置した。 外灯の一部に太陽光発電を採用した。	LR2 資源・マテリアル アスファルト舗装に再生骨材、路盤、砕石地業に再生砕石を採用した。 植栽の灌水に雨水を再利用した。	LR3 敷地外環境 隣地との隔離を確保し、排気、廃熱、臭気の影響を低減した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0036

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大阪大学箕面新キャンパス学寮施設建設工事					
	建設地	大阪府箕面市船場東3丁目					
	用途/区分	集合住宅 物販店					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					4	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.7	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	4.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.9	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		